

歴史(日本の経済成長)

1950年代半ばまでに戦前の水準をほぼ回復した日本経済は、1955年から73年までの間、年平均で10%程度の成長を続けた(①)。それによって、国民の所得は増え、暮らしが便利になり、1950年代後半には三種の神器(②、③、④)が、1960年代後半には3C(⑤、⑥、⑦)が普及した。しかし、その一方でさまざまな社会問題も発生し、農村では⑧化が進み、逆に過密になった都市では住宅不足などが起こった。また、大気汚染や水質汚濁などの⑨も深刻化した。被害を受けた住民は、四大公害裁判(⑩、⑪、⑫、⑬)で、公害を発生させた企業に勝訴した。その後、1967年に⑭法が制定され、1971年には⑮が設置された。1973年の⑯によって、⑰は終わりを告げた。